

2024年度（令和6年度）

第2回バス共創プラットフォーム

日時：2024年（令和6年）9月10日（火）10：00～
場所：iti SETOUCHI 福山市西町一丁目1-1（1階）

次 第

1. 開 会
2. 委員名簿について
3. 説明内容
 - （1）第1回のふりかえり
 - （2）だれもが使いやすく、安心して移動ができる公共交通網（バス交通等）の実現のため
 - （3）取組内容
4. 意見交換
5. 今後の予定
6. 閉会

バス共創プラットフォーム 委員名簿

2024年（令和6年）9月6日時点

区 分	関係機関等	役 職	名 前	備 考
学識経験者	呉工業高等専門学校	教授	神田 佑亮	会長
	山口大学	准教授	鈴木 春菜	副会長
	福山大学	講師	大畑 友紀	
メンバー	株式会社中国バス	取締役運輸部長	宇田 雅英	
	鞆鉄道株式会社	取締役旅客 運送事業部長	神原 昌弘	
	株式会社井笠バスカンパニー	常務取締役	石川 亮	
	北振バス株式会社	専務取締役	吉本 伸久	
	一般社団法人広島県タクシー協会東部支部	理事	富田 直也	
	西日本旅客鉄道株式会社	地域交通課長	山口 晃弘	
	福山市自治会連合会	副会長	河上 正次	
	社会福祉法人福山市社会福祉協議会	常務理事兼 事務局長	小野 裕之	
	福山商工会議所	産業振興部長	後藤 裕正	
	連合広島東部地域協議会福山地区連絡会	事務局長	橋本 敬治	
	広島県高等学校 PTA 連合会福山地区連合会	福山地区 連合会長	佐野 公章	
	国土交通省中国地方整備局 福山河川国道事務所	調査設計課長	速水 優一	
	広島県地域政策局公共交通政策課	公共交通政策課長	丸石 圭一	
	広島県東部建設事務所工務第一課	工務第一課長	行迫 孝治	
	福山市	都市部長	難波 和通	副会長

第 2 回 バス共創プラットフォーム資料

2024年9月10日

1 第1回のふりかえり

(1) 開催日

2024年（令和6年）7月23日（火）15：00~17：00

(2) プラットフォームの目的

「福山・笠岡地域公共交通計画」に定めた利用促進策など各種事業を着実に実行するため、バス事業者、鉄道事業者などの関係機関が連携・協働して取り組むことにより、だれもが使いやすく、安心して移動ができる公共交通網（バス交通等）の実現をめざす

- 具体的な事業をつくる
- 自らがプレーヤーとなって、具体的なアクションを起こす
- 参加者全員が当事者意識をもって何ができるか議論する
- 行政、交通事業者、各団体の役割を整理し、チームとなって取り組む
- バス共創プラットフォームが事業主体です

(3) 主な意見

公共交通について

- ・ 単なる交通手段ではない（まちづくりの根幹で必要不可欠な要素）
- ・ 使いやすいものだと感じてもらうことが必要
- ・ マーケティングの視点が重要（ニーズに合うことが必要）
- ・ 乗るきっかけづくりが必要（公共交通は必要と理解するが利用しない(80・70問題)）
- ・ 慣れるまでのステップが必要
- ・ 渋滞対策と合わせた取組が必要

プラットフォームについて

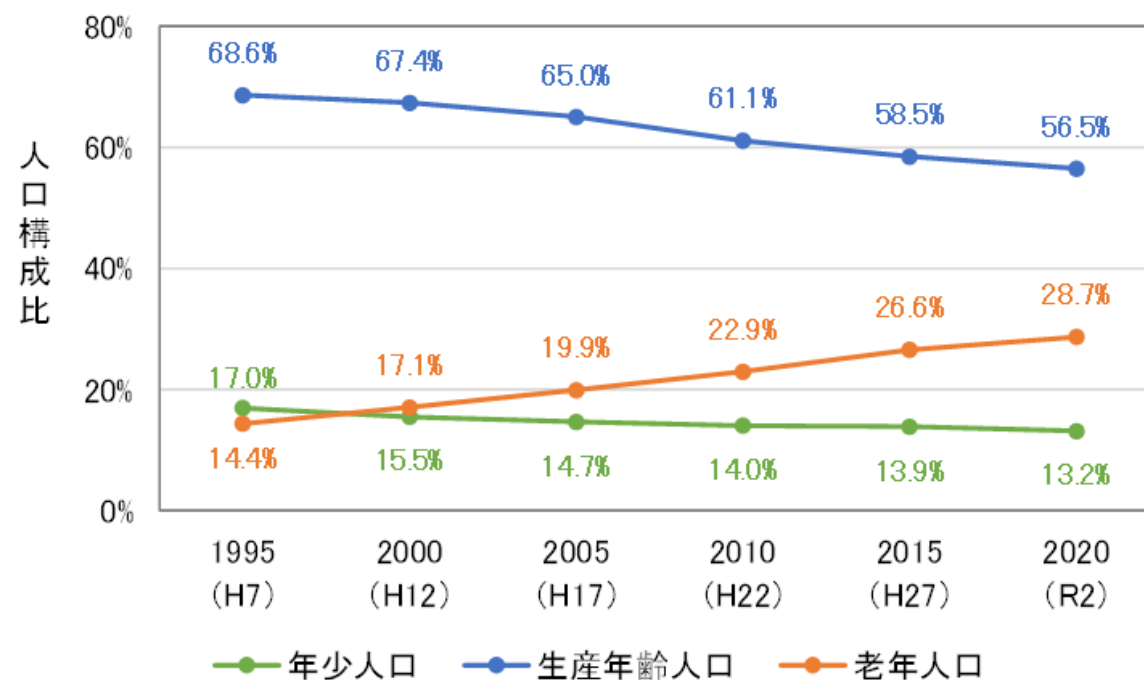
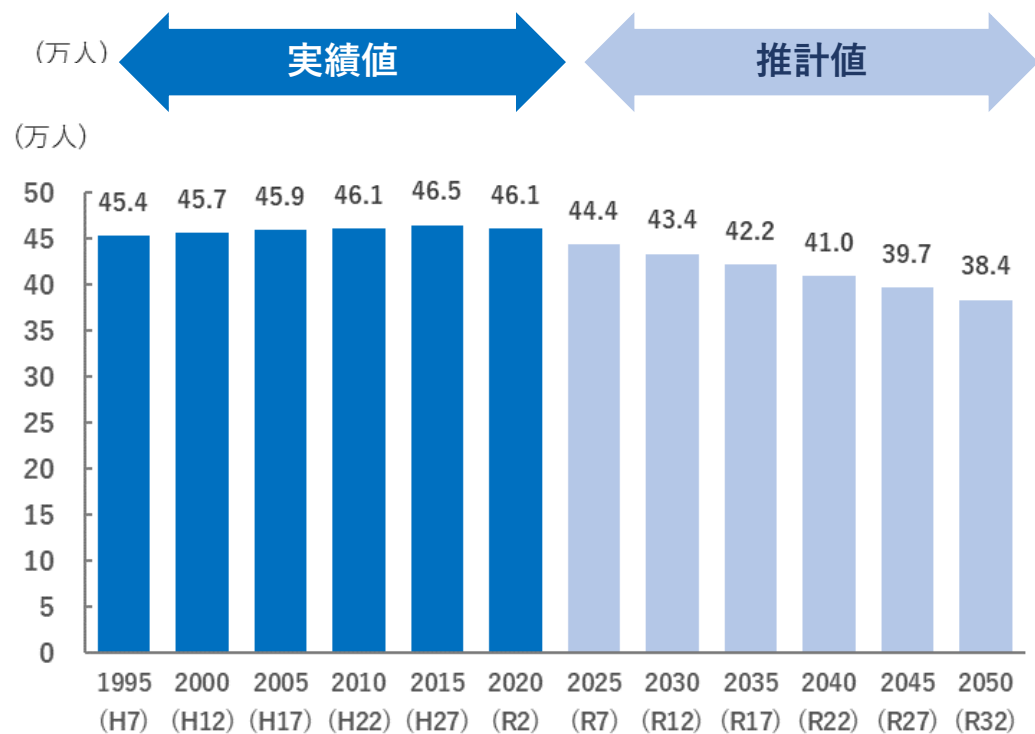
- ・ フットワークの軽さが必要
- ・ 様々な意見、利用者の声を集め共有する

2 だれもが使いやすく、安心して移動ができる公共交通網（バス交通等）の実現のため

(1) 「まち」の現状

1) 急速な人口減少と高齢化

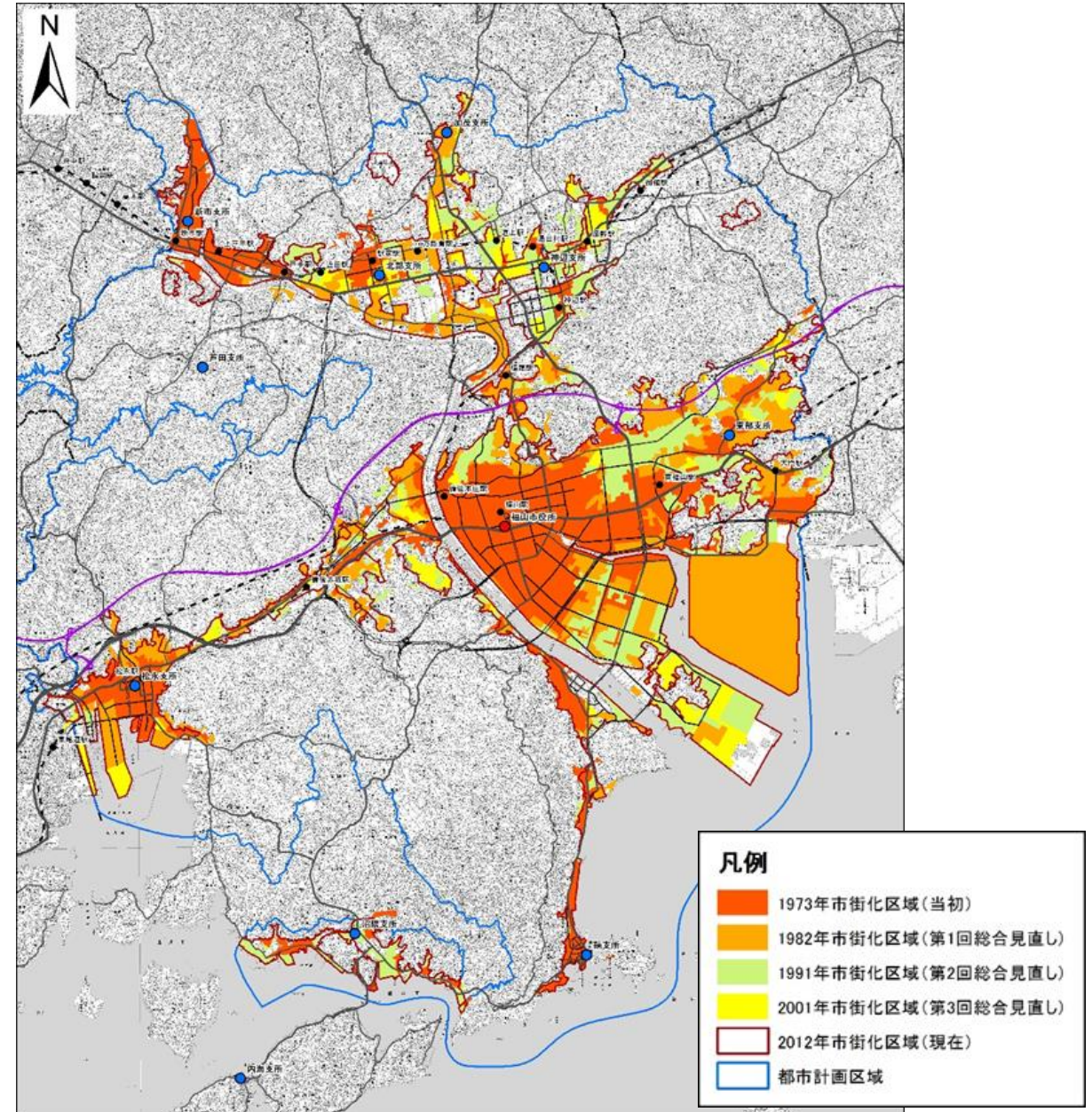
- ・ 2015年（平成27年）まで増加傾向で推移してきたが、2020年（令和2年）から減少に転じている
- ・ 人口構成比の推移をみると、少子高齢化が進行しており、老年人口の構成比が上昇し、年少人口は低下している



出典：国勢調査，国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023年推計）」を基に作成

2)市街地が拡散

備後圏の広域的な都市計画により、将来の土地利用を見据えた市街化区域と市街化調整区域の区分を定める区域区分の決定、いわゆる「線引き」が行われ、それを基にした都市計画事業、民間事業者による市街地開発事業や宅地開発などが進み、モータリゼーションの進展や急激な人口増加と相まって市街地は急速に拡大している



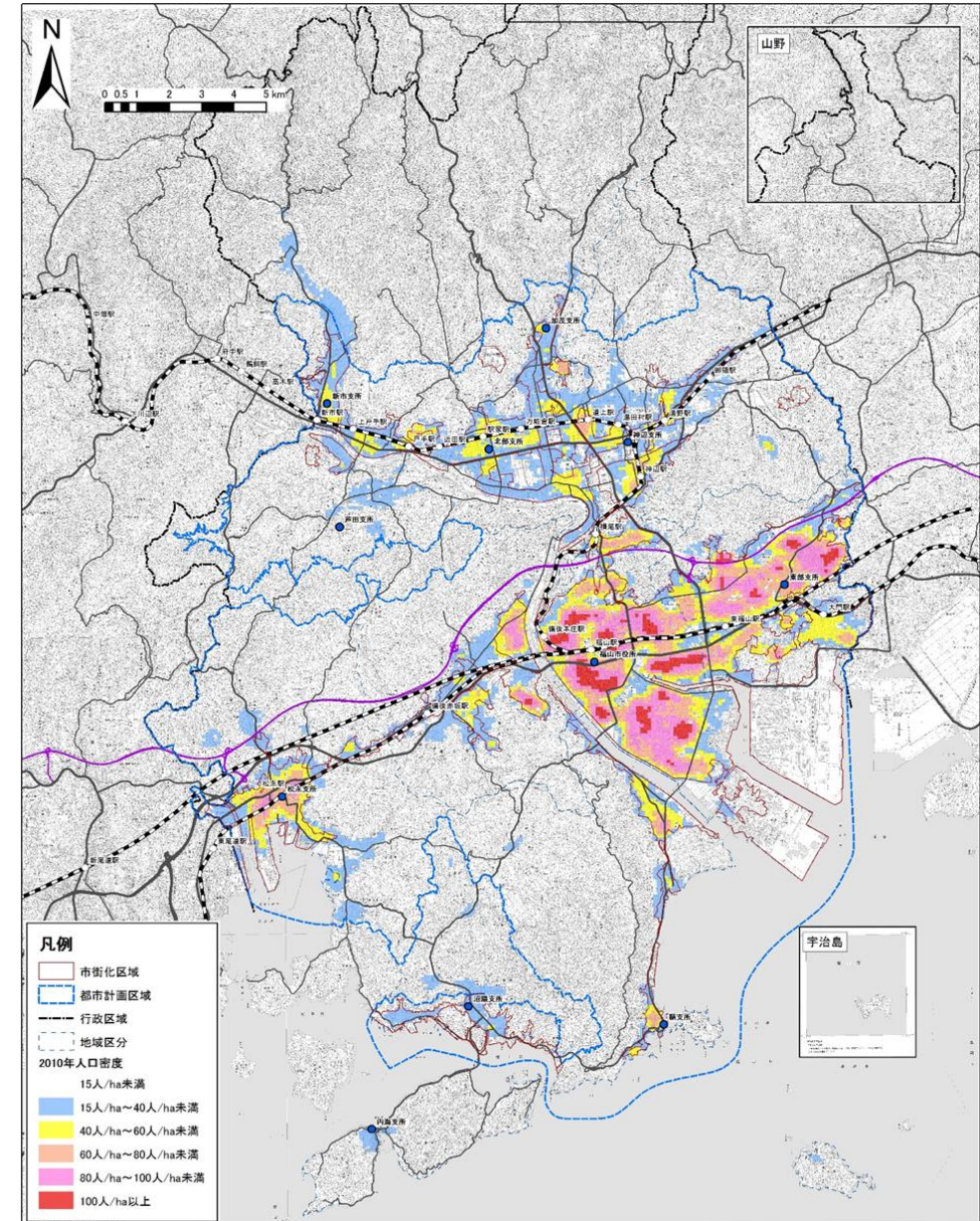
市街地拡大の経緯

出典：福山市立地適正化計画

3)低密度な市街地を形成

中央地域や東部地域の市街化区域内において、特に人口密度の高いエリアが多く、南部地域や北部地域には人口密度の低いエリアが分布している

また、西部地域や北部地域、南部地域の市街化区域以外の地域では、人口密度の低い既存集落が点在している

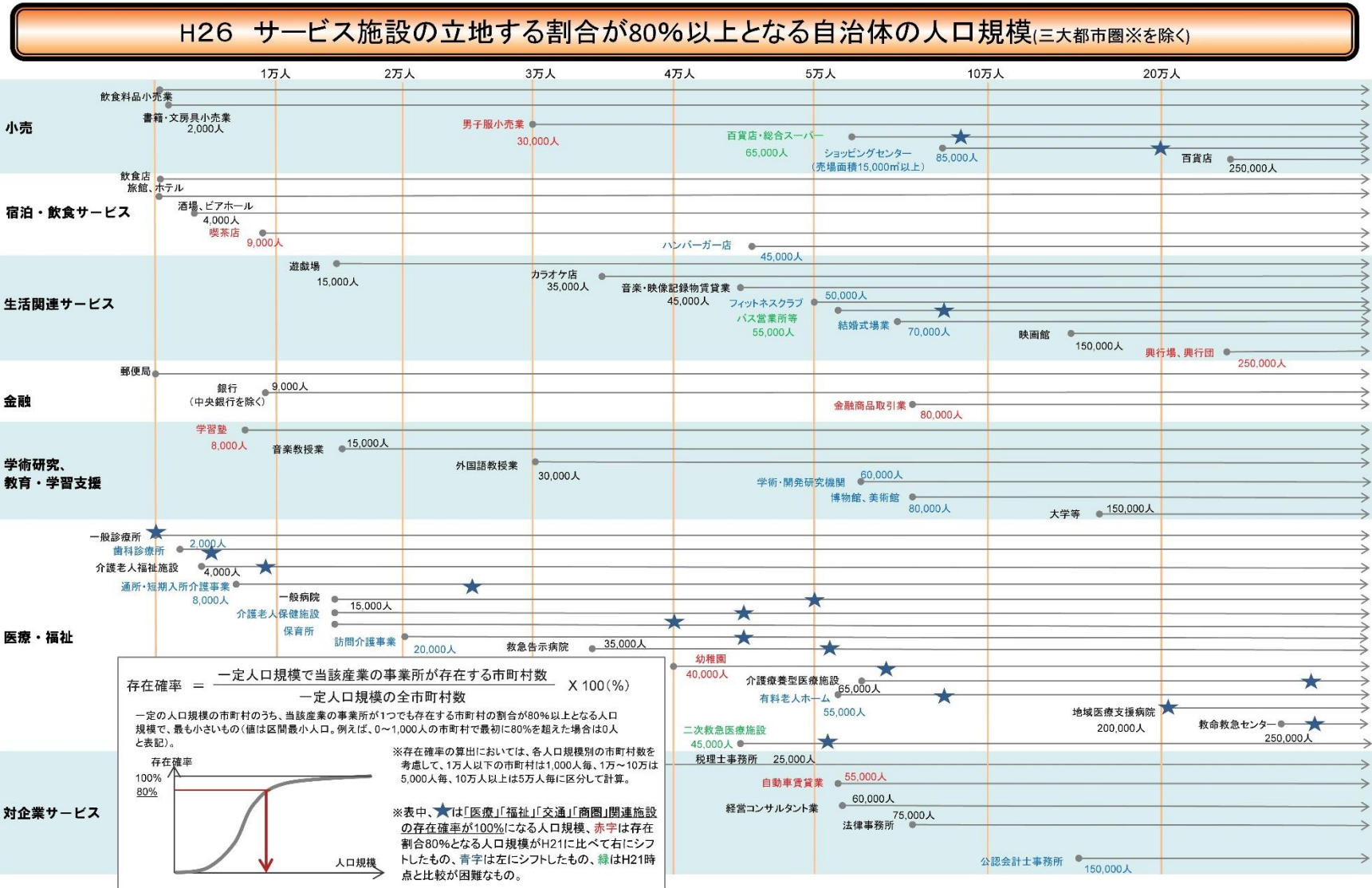


2010年（平成22年）の人口分布図

出典：福山市立地適正化計画

4) 日常生活に必要なサービス施設の提供が困難になりかねない

店舗や病院など日常生活に必要なサービス施設の周辺の人口が減少するとサービス提供が困難になる可能性がある



※総務省「平成26年度経済センサス(民営事業所)」、厚生労働省「医療施設調査 病院報告(平成26年10月)」、同「介護サービス施設・事業所調査(平成26年10月)」、日本救急医学会HP、日本ショッピングセンター協会資料、日本百貨店協会HP資料をもとに作成

5) 福山市の渋滞状況

東西を結ぶ国道2号の渋滞損失時間について
上位ランキング3位と5位が福山都市圏に存在
南北を結ぶ国道182号、国道313号において、
著しい渋滞が発生

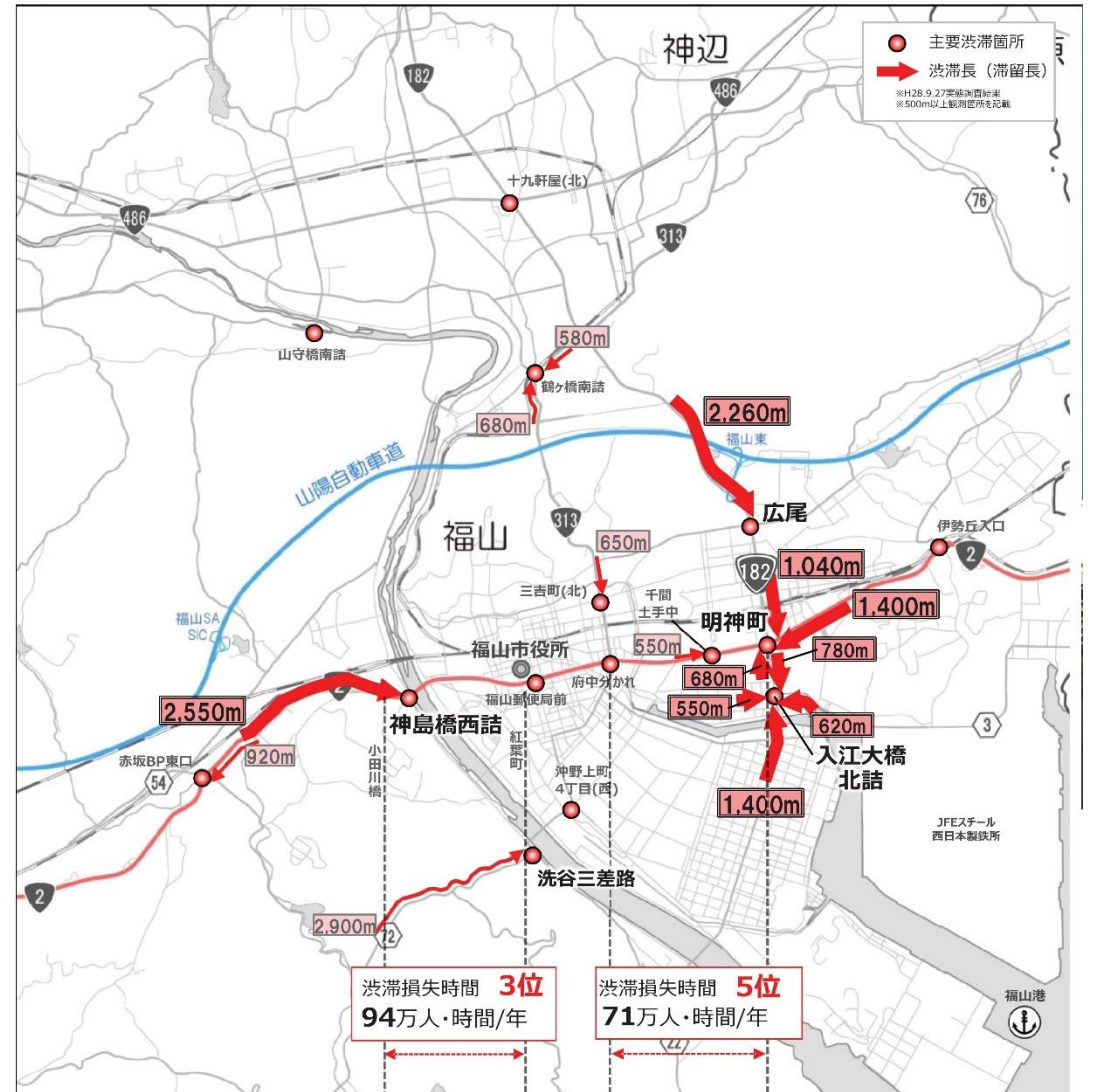
明神町交差点、神島橋西詰交差点、入江大橋北詰交差点、
広尾交差点等では、1 km以上の渋滞長を観測



神島橋西詰交差点
(令和5年1月17日朝撮影)



入江大橋北詰交差点
(令和5年1月17日朝撮影)

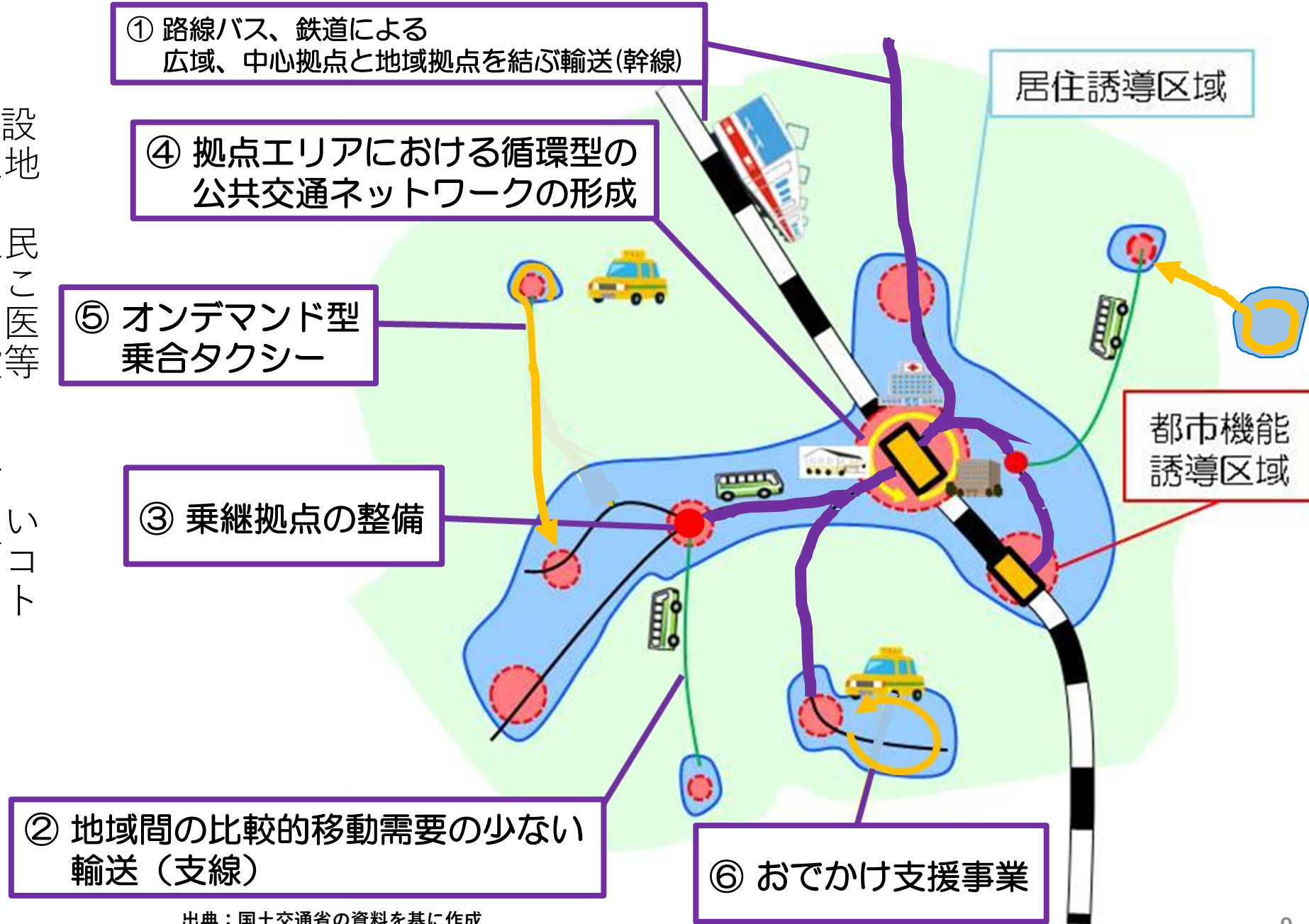


【引用:平成31年・令和元年 年間の渋滞ランキング(令和2年6月8日発表、国土交通省ホームページ)】

出典:福山都市圏交通円滑化総合計画推進委員会資料

(2) めざす姿

- 医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地
- 高齢者をはじめとする住民が自家用車に過度に頼ることなく公共交通により、医療・福祉施設や商業施設等にアクセスできる
- 日常生活に必要なサービスや行政サービスが住まいなどの身近に存在する「コンパクト・プラス・ネットワーク」を目指す



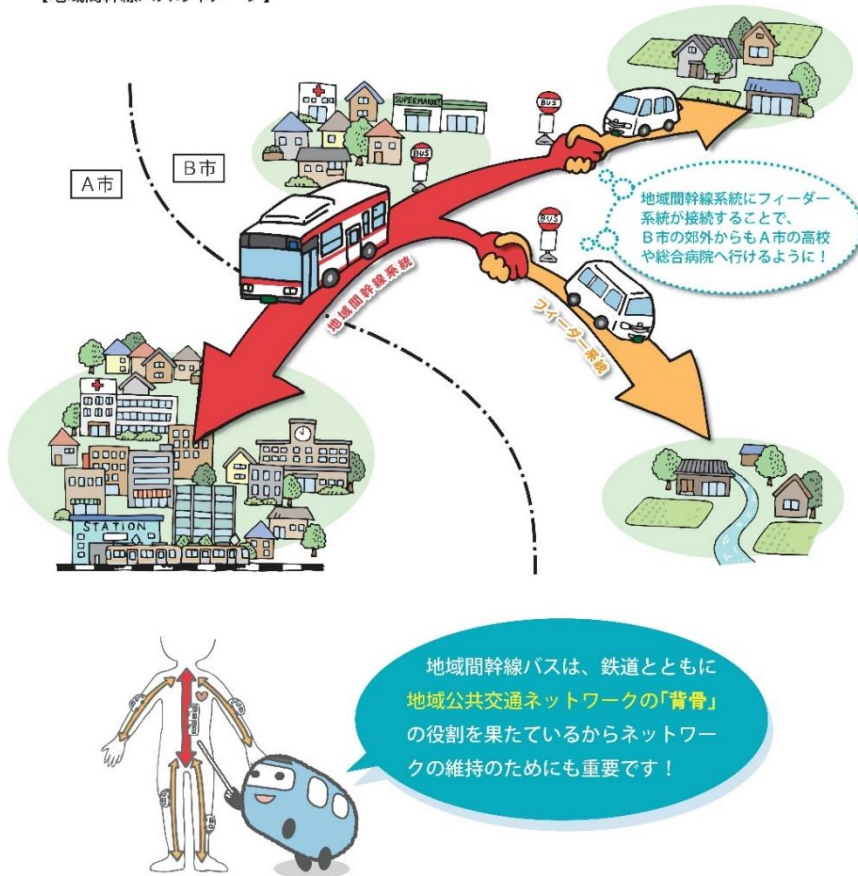
1) 各移動手段等

① 路線バス、鉄道による広域、中心拠点と地域拠点を結ぶ輸送（幹線）

路線の配置：中心地域と各ブロックの拠点を結ぶ路線（区間）で利用度の高い路線

路線の需要の特徴：需要が多い区間

【地域間幹線バスのイメージ】



② 地域間の比較的移動需要の少ない輸送（支線）

路線の配置：鉄道駅や幹線などと住宅地域や郊外地域を結ぶ路線

路線の需要の特徴：需要にばらつきがある区間

笠岡市北木島コミュニティバスの事例

項目	内容
名称	北木島コミュニティバス・予約制タクシー
エリア	北木島内
運行主体	NPO法人かさおか島づくり海社
運行曜日／便数	以前は月・水・金／1日3往復のコミュニティバスのみでの運行であったが、令和3年7月5日からコミュニティバスの減便（金のみ運行）、新たな予約制タクシー（普通車7人乗り、軽自動車4人乗り、グリスロ7人乗り）の導入が行われた。 予約制タクシーは令和4年10月1日より毎日運行している。
運賃	同一区域内 100円，区域間 200円 ※島内の65歳以上は無料

出典：福山・笠岡地域公共交通計画



出典：福山・笠岡地域公共交通計画

③ 乗継拠点の整備

利用者への情報提供の改善や乗継施設を整備することで、待合環境の向上や乗継の抵抗を少なくする



出典：松江市地域公共交通計画



出典：松江市地域公共交通計画



出典：松江市地域公共交通計画



出典：千葉市地域公共交通計画



出典：千葉市地域公共交通計画

④ 拠点エリアにおける循環型の公共交通ネットワークの形成

拠点エリアを循環することで、回遊性や利便性が向上し、賑わいが創出される



出典：松江市地域公共交通計画



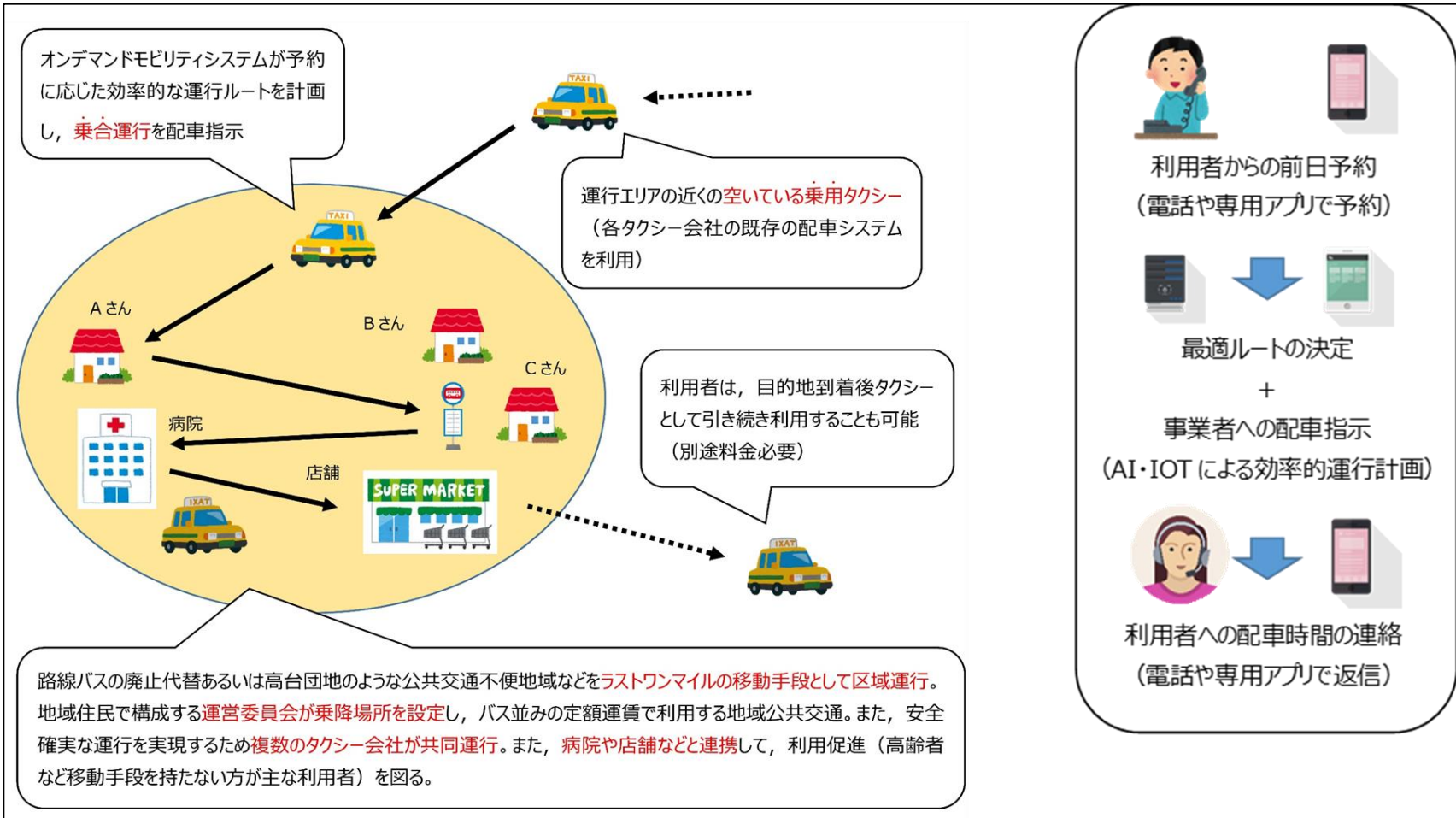
出典：福山・笠岡地域公共交通計画



出典：福山・笠岡地域公共交通計画

⑤ オンデマンド型乗合タクシー

利用低迷が継続する路線バスの廃止等に伴い、利用需要の小さい地域において小型車両を活用した事前予約・乗合型のタクシー



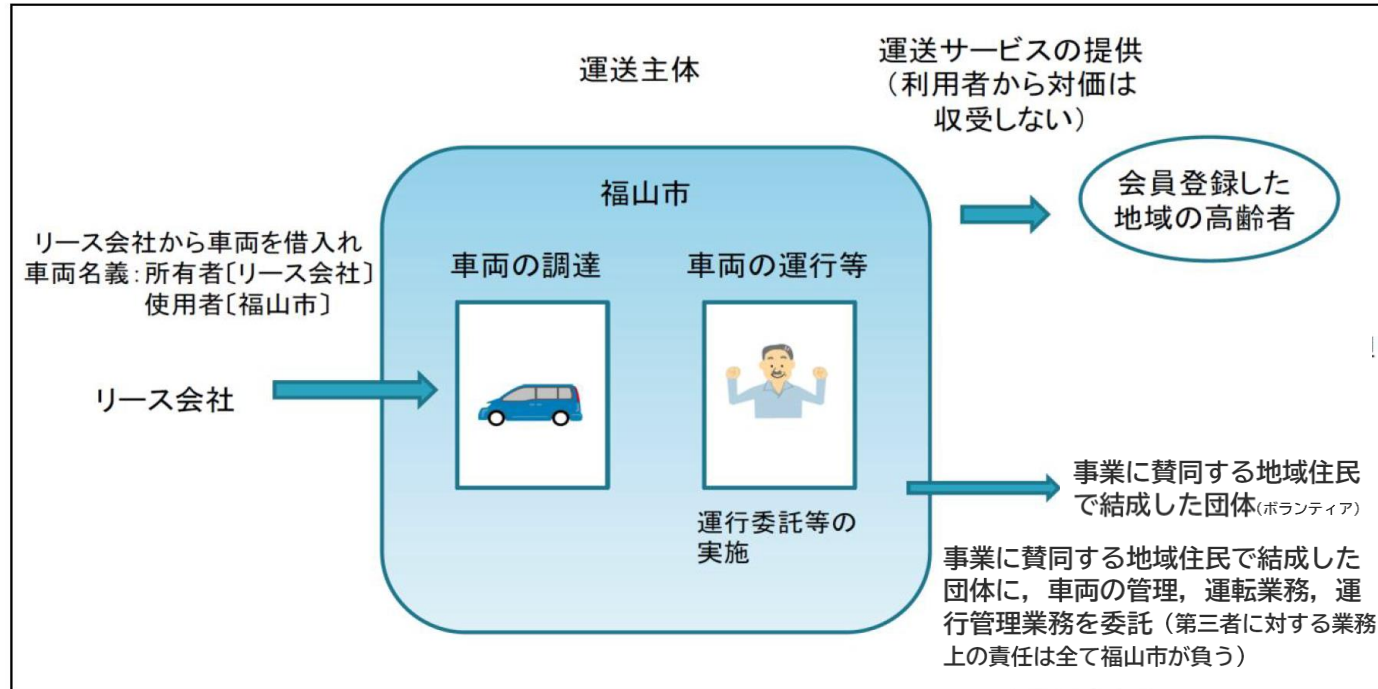
出典：福山・笠岡地域公共交通計画



出典：福山・笠岡地域公共交通計画 14

⑥ おでかけ支援事業（福山市高齢者外出・買物支援事業）

外出の際に支援を必要とする高齢者が積極的に地域活動や社会参加ができるよう支援することを目的とする（公共交通の範疇（はんちゅう）には含まれない）当事業は、バス路線と競合しない地域において、小学校区などを単位として、地域住民・団体が主体となり、高齢者の外出支援を行っている



出典：福山・笠岡地域公共交通計画



出典：福山・笠岡地域公共交通計画

図2-38 おでかけ支援事業実施イメージ

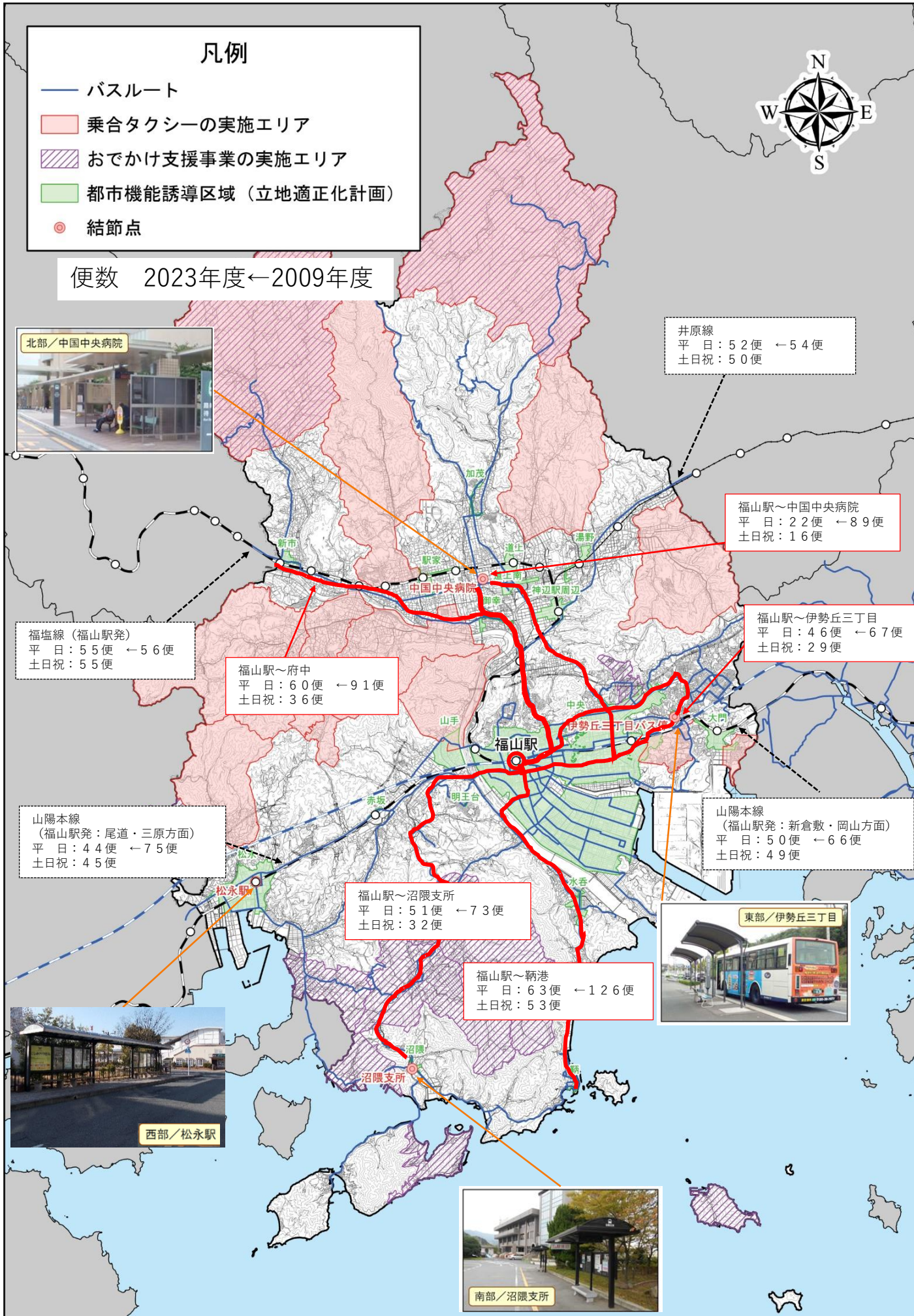
2) 本市の地域公共交通ネットワークの現状 16

現状

- ・各方面に乗継拠点を整備し福山駅と接続
- ・乗合タクシーによるフィーダー輸送

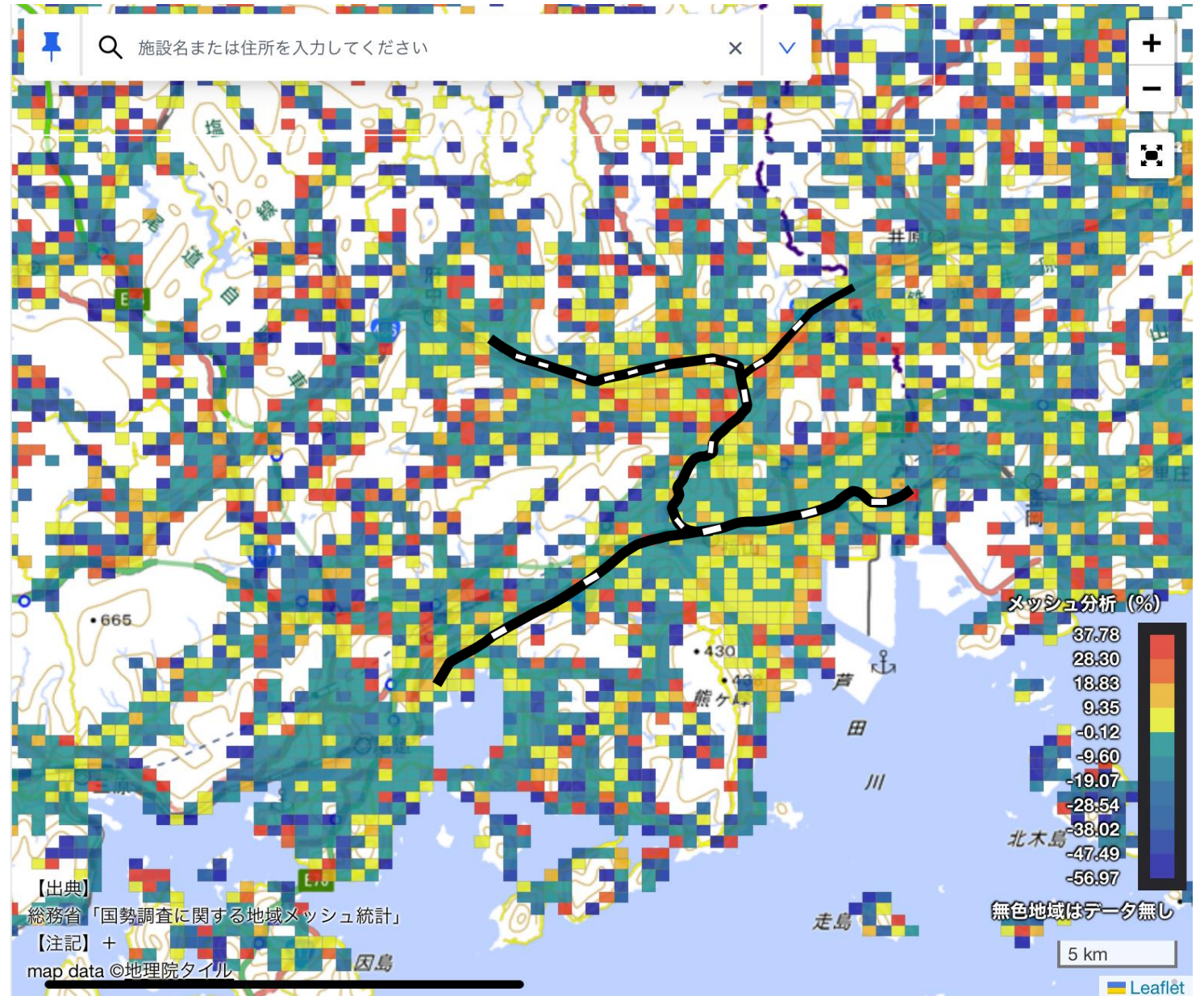
課題

- ・乗継拠点の位置が適正なのか
- ・拠点間の交通サービスは充実しているのか（接続、便数など）
- ・乗継拠点の環境整備（休憩所、時刻表など）



3) 福山市の人口増減率

- ・ 2015年と2020年の人口を比較
- ・ 鉄道沿線を中心に増加傾向にある
- ・ 特に福山駅南、駅家町、神辺町が増加傾向にある



3 取組内容

(1) 第1回の意見と地域公共交通計画に定めた取組との対比

第1段

第2段

現状の問題点	主な原因	課題	地域公共交通計画に定める取組【抜粋】
利用者の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルの変化 ・公共交通よりも車の利用 ○身近でない ・通勤に使わない ・バスに乗るのは高校生まで ・子どもがいると周囲に迷惑をかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・車から公共交通への転換 	①事業者・市民への意識啓発
	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障がい者が利用しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・運行本数の増便 ・路線の再編 	<ul style="list-style-type: none"> ④運行回数・ダイヤの改善 ⑫効率的な地域公共交通ネットワークの確保
利便性の低下	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞で遅れることがある ・バスの運行本数の減便 	<ul style="list-style-type: none"> ・運行本数の増便 ・路線の再編 	<ul style="list-style-type: none"> ④運行回数・ダイヤの改善 ⑫効率的な地域公共交通ネットワークの確保
	<ul style="list-style-type: none"> ・遅延情報が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信 	②利用者目線でのわかりやすい情報提供
バス利用の不慣れ	<ul style="list-style-type: none"> ○バスに乗る機会がない ○バスの情報が不足している ○乗り方がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗る機会の創出 ・情報発信 ○慣れるまでのステップ 	<ul style="list-style-type: none"> ①事業者・市民への意識啓発 ②利用者目線でのわかりやすい情報提供
		<ul style="list-style-type: none"> ○使いやすいものだと感じてもらう 	⑫効率的な地域公共交通ネットワークの確保

※○番号は、地域公共交通計画に掲げる取組番号

(2) 第1段の施策の取組

- バスの運行に関する情報が分からない
- 乗る機会がなく**公共交通に慣れていない
- 車に依存し公共交通に**乗らない**

【取組（第1段）】

「体験してもらおう」、「乗るきっかけづくり」、「ニーズの把握」するため



運賃無料デー・アンケート調査を実施

(3) アンケート調査の実施

- ・ 普段からバスを利用する人の視点

①利用目的②バス利用して良い点 ③バス利用の改善点 など

- ・ 普段からバスを利用しない人の視点

①普段利用しない理由 ②今回利用した理由・感想

③今後の利用意向 ④どんな取組及び改善があったら? など

(4) 岡山市 路線バス等の運賃無料デーの事例

■実施内容

一部でも岡山市内を運行する路線バス及び路面電車の全ての便を無料化（岡山市では2021年度から年数日間の運賃無料デーを実施している）

■調査手法

無料デー各日2,000人に調査票を配布（WEB又は、はがきで回答）

■実施日

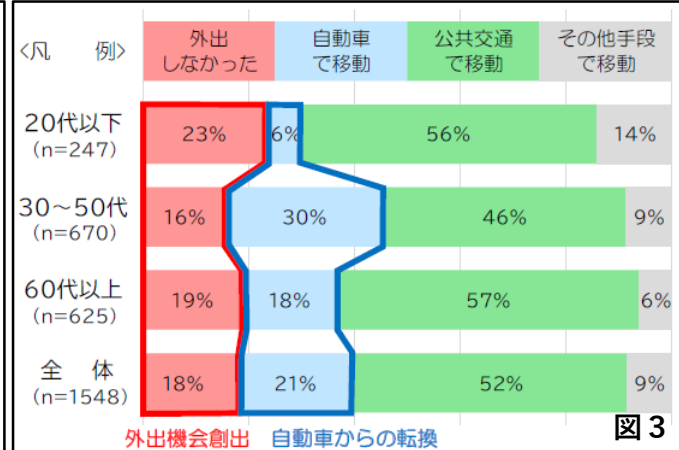
2023年8月6日（日）、9月3日（日）、10月8日（日）、11月3日（金・祝）・5日（日）【全5回】

■主な効果（※10月8日・11日3日 調査分のみ）

- ・路線バス・路面電車の利用者が増加（前週に比べて2.4倍）【図1】
- ・無料デーをきっかけに「利用しない人」のその後の利用頻度17%増【図2】
- ・外出機会の創出、自動車からの転換など【図3】

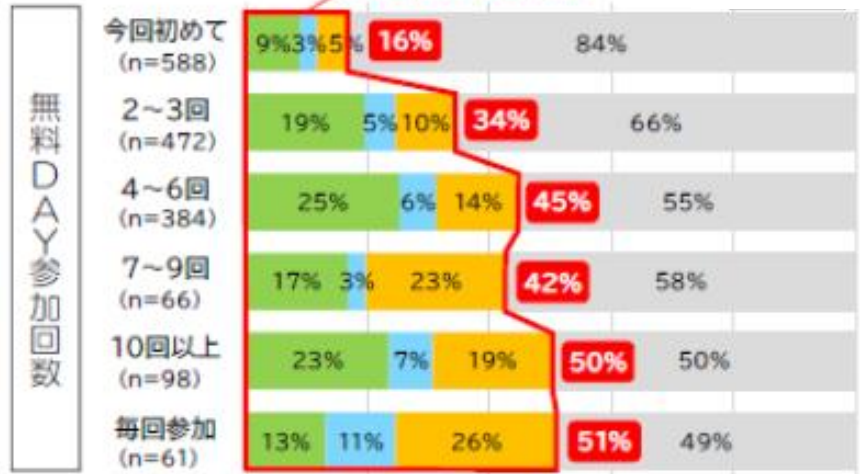
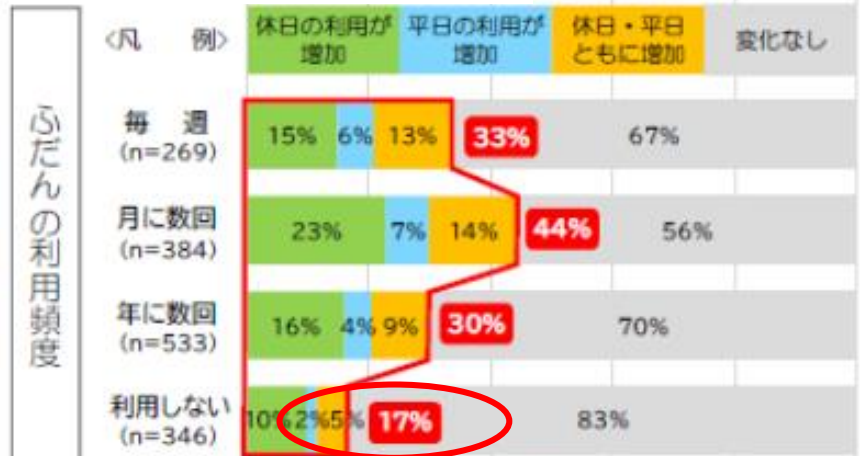


Q2:運賃が無料でなかった場合、当日の外出や移動は？



10/8・11/3無料DAYのアンケート調査（2023年度）

Q1:無料DAYをきっかけに、その後の利用頻度は増えましたか？



(5) 第1段の施策の実施から第2段の施策に取り組む

○公共交通は**慣れるまでにはステップ**が必要

○公共交通は**使いやすいものだと感じてもらう**

【取組（第2段）】

取組（第1段）のアンケート調査結果や人流等のデータ分析から



**ニーズにあった仮説路線や運行便数の増便
などの実証実験を実施**

4 意見交換

- コンパクト・プラス・ネットワーク
- 地域拠点（まち）をつなぐ軸となる路線（幹線） 【バス、鉄道】
- 地域の利便性を向上する路線となる路線（支線） 【バス、乗合タクシーなど】
- 幹線と支線をつなぐ交通結節点とその機能

公共交通体系を軸としたまちづくり

運賃無料デー（案）

○実施時期

11月~12月のうち1週間

○情報発信内容・方法

- ・実施日の周知
- ・路線、バス停や運行時刻
- ・広報媒体

- ・構成員全員で実施日を周知
- ・バス事業者は、路線、バス停や運行時刻も周知
- ・市では、SNS（福山市公式ライン等）、広報ふくやま、チラシ、ポスターの広報媒体を予定

○実施する地域や路線

実施地域・・・福山市内を発着する全便

○アンケート調査項目

- ・普段からバスを利用する人の視点
 - ①利用目的 ②利用して良い点 ③バス利用の改善点など
- ・普段からバスを利用しない人の視点
 - ①普段利用しない理由 ②今回利用した理由・感想
 - ③今後の利用意向 ④どんな取組があったなど

○工夫すべき点

- ・「バスに乗ってよかった」と感じてもらえる「バス事業者のマナーアップ」
- ・他市では、通年的に利用者増加につながっているか効果検証に苦慮しているので、本市においては、運賃無料デー実施後も継続調査（アプリを使用したモニターによる追跡調査）を行う

○連携できる点

5 今後の予定

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月～
プラットフォーム開催	○第2回		第3回○			第4回○			
運賃無料デーの検討	■								
運賃無料デーの実施			■						
路線見直しの検討・提示 新たな路線の検討・提示	■								
具体的な利用促進施策の検討	■								
施策の中間取りまとめ						■			

次回開催予定 11月下旬を予定